

シシリムカ沙流川に暮らす人々との対話集



木俣美樹男

準備中

シシリムカ沙流川に暮らす人々との対話集

この近くにアワ畑があるのだが、
小さい穂を誰も刈ってくれないので、
小さい穂たちがとても悲しんでいる。
あれを刈り取らないと、
そのうちに神様から叱られるにちがいない
(椎久トイタレケ老伝承、更科 1981)

雑穀栽培調査において、野帳に記すことが間に合わないほどの内容であったので、お話を伺った方に了承を得て音声記録および写真をとった。今となってはとても貴重な対話なので、文章化することにした。人となりは印象に過ぎない。個人情報保護に関わることは削除した。



図 1. 対話者：a；貝沢正さん、b；貝沢ハギさん（写真は貝沢ハギさん提供）、c；立花登さん夫妻、d；貝沢吉哉さん夫妻と東京学芸大学探検部員ら。

1. 萱野茂さん 1981. 7. 29

1) 人となり

アイヌ民族学者、資料館の創設者、平取町会議員、後に参議院議員。
萱野さんの情熱、意志、能力は何にしても高い敬意を表したい。しかしながら、初対面の際は、あまり好意的な応対はされなかった。単に多忙だからか、私が若輩だからか、和人に対する反感か、人脈がないと受け入れられないのか、理由は分からないが、いくぶん不親切さを感じた。自信故の誇りか、もっと単純にアイヌ研究者への慣れと反感なのかもしれない。アイヌ文化はアイヌ人が研究するのがより良いことで、私は植物学者であって、

もとよりアイヌ研究者ではない。二風谷に来て、多くの研究者が論文や本を書き、出世したのに、アイヌは見世物になっただけだとの反感を聞いた。和人が好奇心で、あるいは同情心でのみで調査に来るのだろうか。学問的な興味は別としても、差別とか何かに深く考慮することはないにしても、事実を知るといふ気持ちで訪れるのではないのか。そんなに、誰もが和人シャモとアイヌという構造で尊大にしていたのではないと思う。個人間では信頼できても、民族間となれば別なのだろうか。貝沢吉哉さんが言うように、一人、二人の信頼を裏切る人間が、すべてに対しても疑念を抱かせる。しかし、私は個人間が第一で、民族間は二次的だと思う。それでも、個人間の信頼の上に、民族文化が尊重されるのではないのか。萱野さんの素晴らしい仕事がアイヌの民具収集と研究である（萱野 1978）。

2) 対話

2. 貝沢吉哉さん 82. 3. 23.

1) 人となり

PTA 会長など歴任、民宿チセ経営、木彫、ゴルフ歴 22 年。人に対する評価は厳しいが、礼には厚い。民族的な誇りを大切にし、筋論を展開する。子供の教育に意を配る。萱野さんの紹介で、北海道調査の時は民宿チセを定宿にしていた。貝沢吉哉さんは、私にとっては宿泊客ではなくて、生物的、法的なつながりはないが、義兄弟だ。食事も家族と一緒にさせていただいた。東京にも来て、五日市での冒険学校で子どもたちに自然との付き合い方を教えていただいた。その後、自然文化誌研究会と二風谷小学校との協働活動の二風谷冒険学校でも教えていただいた。

2) 対話

3. 貝沢正さん 82. 3. 25.

1) 人となり

人望厚くウタリ協会副理事長、平取町町会議員など歴任、正確な記憶力で文化的な事象に詳しく、自ら二風谷集落の調査研究を試みている。温厚であるが、判断力は的確である。アイヌ民族の将来に対しても、しっかりした見識がある。夫人はしっかりした人で、明確に自己主張する。貝沢さんが掲載された写真集がある（Stocklassa, Jefferik 1991）。息子の耕一さんはナショナルトラストをして、沙流川を保全している。

2) 対話

4. 立花登さん 82. 3. 25.

1) 人となり

敗戦後、開拓農民として、入植し 30 年になる。立花さんは開拓の苦労は少しも見せずに、にこやかで、静かで男らしい。寡黙で、非常に厚意溢れ、温厚な人柄である。夫人は福島県出身で、交通事故から回復され、心優しい人柄である。

2) 対話

5. 貝沢ハギさん 82. 3. 26.

1) 人となり

厚岸あつし織の再興、創作者で、産業化を成功させた。ユーカラや踊りなどをして全国を回った。アメリカにも20日ほど行った。才能豊かで、記憶力は特に素晴らしい。三顧の礼を尽くしてやっと会っていただけた。人物評価は厳しく、私が彼女からピリカアイヌと認められた後は、無制限の厚意を頂けた。ドラ声の誠に陽気な人柄である。民族文化を伝承する意欲が高く、アイヌ語を話すこともできる。復活したイオマンテの写真やユーカラの録音テープの複製を許された。

2) 対話

6. 木村八重子さん

1) 人となり

貝沢ハギさんと親しい。木村さんは大変におとなしく、にこやかで、ハギさんとは対照的な性格に見えるが、良い組み合わせであるようだ。

2) 対話

7. 西島テルさん (87才)

1) 人となり

テルばあとして親しまれている。アイヌ語が良くできて、貝沢ハギさんとともにアイヌの儀式を司る資格をもっている。人間に対する評価は情緒的な感じがする。大変にしっかり者で、親切と割り切りが一体になって、世慣れているという感じである。夫は小柄で人が良く、厚意が溢れ、テルばあの言うことに従っている感じである。

2) 対話

8. 黒川せつ子さんら

1) 人となり

テルばあの紹介だが、迷惑そうであった。夫が転寝して、煮物を焦がしてしまったからかもしれない。木村かねさんは黒川さんの隣人で、厚意ある人だ。木村きみさんは良さそうなおばあさんだが、あまり話を聞くことはできなかった。

2) 対話

9. 貝沢健次郎さん (60才) 82. 3. 27.

1) 人となり

引退して、ヒグマの狩猟やマツタケ採集をしている。マツタケは1kg当たり3万円だそう。ヒグマはほぼ確実に仕留める。脇の下を狙うと、心臓に当たる。アイヌとして自然に対する直感の備わった人のようだ。酒好き、控えめだが人を見据える眼力と風格がある。夫人も良い人のようだ。

2) 対話

参考文献

- 姫田忠義・曾我礼子編 1973、シシリムカのほとりに、萱野茂、北海道平取町。
萱野茂、物とこころ。二風谷アイヌ文化資料館、北海道平取町。
萱野茂 1978、アイヌの民具、すずさわ書店、東京。
Stocklassa, Jefferik 1991, Ainu, Tien Wah Press Ltd., Singapore. アイヌの人々の暮らしの写真集。